

2000年から2014年までに鹿児島大学病院矯正歯科を受診された患者さんへ
(研究の実施に関して、ホームページに公表する内容)

「矯正歯科治療を受ける患者の心理的背景とボディーイメージ、行動変容に関する研究」の研究に関するお知らせ

1. 【研究課題名および研究代表者】

研究課題名：「矯正歯科治療を受ける患者の心理的背景とボディーイメージ、行動変容に関する研究」

鹿児島大学病院 発達系歯科センター 矯正歯科

教授 宮脇正一

2. 【対象】

矯正歯科診療のため、鹿児島大学病院矯正歯科を受診した患者のうち、研究の趣旨を理解し、同意の得られた患者を1年あたり100名対象(計500名)とします。ただし、妊娠中または妊娠の可能性のある者は除外します。その他本研究への参加が不相当と判断される場合は除外します。被験者の年齢は問いません。対照群として、2000年から2014年までに鹿児島大学病院矯正歯科を受診した患者約500名の検査結果(形態検査、顎口腔機能検査)・診療記録を対象とします。

3. 【研究機関名】

鹿児島大学病院 発達系歯科センター 矯正歯科

4. 【目的】

本研究は、矯正歯科治療を受ける患者の心理的背景と行動変容の関係を明らかにし、それらに基づいて患者の主訴の改善に最も効果的な治療計画を立案するシステムを構築し、患者のQOLの向上に貢献することを目的とします。不正咬合には下顎前突(下顎が前方に出ている状態)や上顎前突(上顎が出ている)など様々な類型があり、噛めない、見た目が気になる等の理由で矯正歯科を受診する患者は年々増加傾向にあります。しかし一方で、不正咬合があるにも関わらず治療対象としての認識がなく、矯正歯科を受診しない場合もあります。そこで本研究は、このような医療行動の違いの背景に『個人のボディーイメージ(自分の体をどのように認識しているかという概念)の差が医療行動の変容に影響している』との仮説を立て、本研究で検証を行うとともに、矯正治療における心理検査の有効性を検証します

5. 【方法】

前項の目的を達成するため、従来の矯正治療に必要な一般的検査(形態検査、顎口腔機能検査)に加えて新たに心理検査を実施します。

患者群：

心理検査、形態検査、顎口腔機能検査により得られた検査結果と診療録を基に得られたデータを集計して解析します。

対照群：

2000年から2014年までに鹿児島大学病院矯正歯科外来にて従来型検査(形態検査、顎口腔機能検査)を用いて矯正治療を行った患者さんの、既存の検査結果・診療記録を集計して解析します。新たに資料等の採取は行いません。

6. 【意義】

矯正歯科治療を受ける患者さんの心理的背景は、治療計画の立案において重要であるため、その評価システムの確立が急務です。本研究は矯正歯科を受診する患者さんのボディーイメージおよび行動変容と実際の顎顔面形態・機能との関連を明らかにすることにより、患者さんの主訴の改善に最も効果的な治療計画の立案を行い、

これらに基づいた歯科矯正治療を提供するシステムを構築することにより、患者さんの QOL の向上に貢献するという意義があります。

7. 【個人情報】

調査結果の発表や出版に際しては個人が特定されるような情報は掲載いたしません。また、調査結果は個人情報を含まない形で保存いたします。検査資料の使用拒否を申し出る場合は下記までご連絡いただきますようお願いいたします。申し出があった場合は速やかに対象から除外いたします。使用拒否を申し出たからといって、あなたの不利益になるようなことはありません。

8. 【問合せ先】

鹿児島大学病院 発達系歯科センター 矯正歯科

ウエダ ヒロタカ

助教 植田 紘貴

〒890-8544

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番 1 号

TEL : 099-275-6620

FAX : 099-275-6258